



生態系保全活動を契機とした地域振興

都市的地域

さかづら

さと

うつのみやし

逆面エコ・アグリの里（栃木県宇都宮市）

- 本地域は、宇都宮市の中心市街地から北方約10kmに位置する農村地帯。地域住民の混住化・高齢化、周辺地域の開発が進行。
- 地域内に設置されたフクロウの巣箱で、産卵が確認されたことを契機に、地域をあげてフクロウを保全する機運が向上。このため、H19年度に組織を設立し、農地・水・環境保全向上対策を活用し、フクロウをシンボルとした生態系保全活動を開始。
- フクロウの保全活動を契機として、農産物のブランド化に繋がったほか、当地域を舞台として、生態系に係る学術研究も活発化。

【地区概要】

- ・取組面積 123ha（田 123ha）
- ・資源量
開水路20.2km、パイプライン3.2km、農道25.2km
- ・主な構成員
農業者、自治会、子供会、学校 等
- ・交付金 約5百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、水田の広がる農村地帯であるが、宇都宮市街に近いことから、混住化が進み、農家人口が年々減少し、農地・農業用水等の適切な保全管理に支障。
- 平成17年に、自治会の住民が属するNPO法人（自然活動団体）がフクロウの巣箱を設置したところ、翌年産卵が確認され、またたく間に「逆面の自然を守る、地域をあげてフクロウを守りたい」という機運が向上。
- このため、平成19年から農地・水・環境保全向上対策を活用した、地域資源の保全活動を開始。

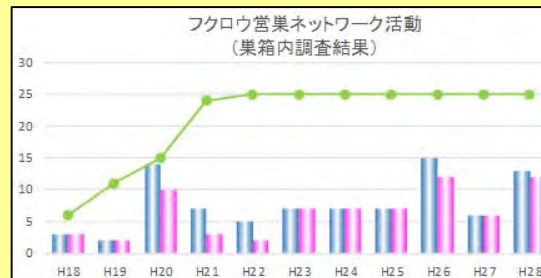


巣箱設置

水路の蓋掛け
（カエル蓋）

取組内容

- フクロウを育む豊かな生態系を有する里として、フクロウの巣箱設置やエサ場の環境整備、希少種の調査・監視と保護活動等を実施。



産卵数・孵化数の推移

- これらの活動により、フクロウのエサ場を守るための減農薬・減化学肥料に取り組む農業者もでてきており、生産された米は、H22年度に「育む里のフクロウ米」として商標登録されるまでに波及。

取組の効果

- 地域内でフクロウが継続的に営巣し、里山の豊かな環境が保全。
- 地域ブランド農産物「育む里のフクロウ米」として付加価値を高めて販売。
〔 減農薬等への取組面積 平成28年度 64 ha
通常米の販売価格(1,350円/5kg)
→フクロウ米の販売価格(2,500円/5kg) 〕
- 地元大学と連携し、フクロウの生態や地域の生態系に関する学術研究が活発化。



フクロウの赤ちゃん



育む里のフクロウ米



女性組織を中心とした活動再開の取組

都市的地域

ざるうち

うつのみやし

申内環境保全会（栃木県宇都宮市）

- 本地域は、宇都宮市の東部に位置し、ほ場整備後の恵まれた条件、環境の中で営農を行っているが、農業情勢の変化が著しく、他産業への兼業化や非農業者の混住化が進行。
- 古き良き農村の自然環境を守っていくために、農地・水・環境保全向上対策（以下「農地・水」という。）を活用し『申内みどりの古里保存会』を立ち上げ、農業用施設の補修や地域住民を巻き込んで植栽などの共同活動を実施。（活動期間：平成20年度～平成24年度）
- これまでは、地域の農地維持作業は農業者個人が行っていたが、農地・水の取組を進めていく中で、共同作業による農業用施設の補修が十分に実施できたこと、また、次に引き継ぐ役員の後継者がいなかったこともあり、活動を一旦休止することとなった。
- 農家、農村地域を守っていくには、やはり共同活動を再開する必要があるだろうという機運が女性組織を中心として高まり、多面的機能支払交付金による『申内環境保全会』を設立（活動再開：平成27年度）し、地域コミュニティの強化や農地の保全に努めている。

活動休止した経緯

- 当地区は平成10年度にほ場整備が完了し、10年くらい経過した頃、農業用施設の老朽化や水路の土砂堆積が目立ち始めたため、『申内みどりの古里保存会』を立ち上げ、施設の補修などに取組。（平成20年度活動開始）
- 5年間活動したものの、施設の補修が十分に実施できたこと、植栽など地域の美化活動が継続できたこと、また、次に引き継ぐ役員の後継者がいなかったことから、活動を一旦休止。（平成24年度活動休止）



農用地を利用した景観形成活動（彼岸花）

活動を再開した理由

- 活動休止期間中も地域の美化活動や草刈り、堀浚いなどの共同作業は行われたものの、参加者は限定的。
- 農地・水の時代から「女性では別の取組ができるのでは」、との声があったが、実現に至らず活動休止となったこと、また、以前よりも事務手続きが簡素化されたことなどから、JAの女性組織「みどり会」（女性9名）を中心に活動を再開。（平成27年度活動再開）
- 活動再開後、地域内のコミュニケーションがより取れるようになり、非農業者を含め、さらに地域をきれいにしようという意識が醸成。



女性を中心とした取組（景観形成活動）



【地区概要】

- ・取組面積 51ha（田51ha）
- ・資源量 開水路7.5km、農道6km
- ・主な構成員
農業者、非農業者、自治会、婦人会、小学校
- ・交付金 約3百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同）

取組の効果及び活動展開

- 活動への参加が強制されないこと、女性の役員が多く、参加しやすい雰囲気となったことから、共同活動の参加者が増加。
〔 彼岸花ロードの草刈りの
参加人数 H27 19人 → H28 25人 〕
- 小学1年生による生き物調査を実施してきたが、3年生による農業体験学習を新たに開始。また、これまで1校だったが、2校に増やすなど食育の推進に寄与。
- 子供会との交流活動として、収穫体験（トウモロコシ、サツマイモ）を実施。
〔 参加人数 H27 43人 → H28 69人
※親を含む人数 〕
- 地域農業や活動組織の役員となる後継者を育成するとともに、営農集団の設立など将来にわたる持続可能な地域農業を検討。



子供会との交流会

生産緑地における農業者と地域住民等の共同による取組

ちーむ ぞうだぼり ふちゅうし
Team雑田堀（東京都府中市）

- 本地域は、府中市の中部に位置し、府中用水の支流である雑田堀用水の流域で、米やさつまいも等の栽培が行われており、農業者と小学校のPTAを中心に水利施設等の保安全管理（用水路を含む緑道の清掃）を実施していたが、農業振興地域ではないため、農地・水保安全管理支払には取り組めなかった。
- 平成26年度の多面的機能支払の制度創設により、農地維持支払は生産緑地等も対象となったこと、また、水利施設等の保安全管理について、農家と小学校のPTAが中心となり、組織を立ち上げた。
- 従来、農家が実施していた施設の点検、「雑田堀用水に親しむ会」を中心として実施していた草刈等を活動組織の取組として実施。

【地区概要】

- ・取組面積1.9ha（田0.2ha、畑1.7ha）
- ・資源量 水路0.7km
- ・主な構成員
農業者・小学校PTA、雑田堀用水に親しむ会、企業社員等
- ・交付金 約4万円（H29）

農地維持支払

活動開始前の状況や課題

- 本地域は 都市化が著しく進行し、雑田堀用水に沿って生産緑地が点在する状況まで宅地化され農地が減少していることから、水利施設等の保が重要
- 平成14年頃から農業者と小学校のPTAを中心に水利施設等の保安全管理（用水路を含む緑道の清掃）を実施



貴重な農地



幹線水路

取組内容

- 平成27年度から本取組により水路法面の草刈りを実施
- 緑道に日日草を植栽する活動
- 地域の小学校の放課後活動との連携（小学生に読み聞かせ等を実施）
- 構成員以外の地域協力者と「地域活動懇談会」を実施
- 市民協働まつりで活動事例を発表（参加者数50人程度）



活動組織と小学生等による
水路の草刈り



読み聞かせ

取組の効果

- 構成員に限らず、小学生や保護者等が多く参加（毎回約50人参加）
- 緑道の植栽、看板による注意喚起、ゴミの投棄が減少
- 地域ぐるみで市議、援農ボランティア、企業社員等10数名も活動に参加し地域が活性化
- 担い手の確保・育成が進みつつある



看板の設置



長野堰広域協定（群馬県高崎市）

- 本地域は、世界かんがい施設遺産に選定された長野堰用水の受益であり、本交付金で施設の保安全管理や「長野堰用水」を活用した活動を実施。
- 土地改良区が中心となって広域活動組織を設立。土地改良区は事務局として広域活動組織に参画し、農業者の負担軽減を図るとともに各種活動の企画や助言等を行っている。
- 小学校や自治会と連携して、「長野堰用水」の景観形成活動を実施しているほか、長野堰用水をより多くの人に知ってもらうためにウォーキングイベントを開催し、施設の魅力を発信。

【地区概要】

- ・取組面積 362ha
(田362ha)
- ・資源量 水路46.1km、農道17.3km、
ため池2箇所
- ・主な構成員 農業者、土地改良区、
自治会等
- ・交付金 約19百万円(R1)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

活動開始前の状況や課題

- 平成28年度に長野堰用水が世界かんがい施設遺産に登録された。
- 長野堰用水は農業用水だけでなく、市街地全域の防火用水及び環境美化用水等に利用されていることから、地域では施設の魅力を発信していきたいと考えていた。
- 地域のまとめ役がいなかったことや事務負担を理由に本交付金を実施できないでいた。
- 長野堰用水の幹線水路は土地改良区が保安全管理し、下流は慣習的に地域の農業者が中心となって保安全管理してきたが、農業者の高齢化や減少に伴い、管理が困難になっていた。



世界かんがい施設遺産に選定された長野堰用水

取組内容

- 地域資源を地域が一体となって保安全管理していくために、平成30年度に土地改良区が中心となって広域活動組織を設立し、事務局として参画。
- 長野堰用水に親しんでもらうため、地域の小学生と円筒分水周りの景観形成活動として植栽を実施。
- 長野堰用水をより多くの人に知ってもらうためにウォーキングイベントを開催。
- 自治会と連携して、長野堰用水の土砂上げやゴミ拾い等の保安全活動を実施。



ウォーキングイベントの様子



清掃活動の様子

取組の効果

- 活動を通じて、子どもたちや地域住民に長野堰用水の歴史や役割を知ってもらう機会を設けることができた。
- 地方紙に本交付金の活動を取り上げてもらうことで長野堰用水や地域の魅力を発信できた。
- 土地改良区が事務局を担うことで、農業者の負担軽減が図られ、農業者は活動に専念できた。
- 本交付金の活用により集落の枠を越えて、農業者、非農業者が協力して施設の保安全管理を実施できた。



植栽活動の様子



市内を流れる長野堰用水



むらやま さと はぐく

ほくとし

村山の郷・育む会（山梨県北杜市）

- 本地域は、ハケ岳、南アルプス山脈、奥秩父山塊といった山々に囲まれ、南には富士山も望める市のほぼ中央にある高根町に位置する水田地帯。世界かんがい施設遺産に選定された「村山六ヶ村堰疎水」を活用した様々な活動を本交付金により充実。
- 小学校等と連携して、村山六ヶ村堰疎水の歴史や役割について学ぶ親子3世代のイベントを開催したり、疎水によって育まれる食材の魅力発信などもイベントに取り入れ、地域内の様々な組織と連携し、集落間や親子3代の交流を図り、地域を活性化。

【地区概要】

- ・取組面積 342ha
(田238ha、畑104ha)
- ・資源量 水路12.3km、農道3.0km
- ・主な構成員 農業者、婦人会、子供会等
- ・交付金 約24百万円(R1)
農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 平成28年度に村山六ヶ村堰疎水が世界かんがい施設遺産に登録された。
- 本地域は、旧六ヶ村の17集落により構成されているが、共同活動に参加する若い世代の減少等により、集落単位のコミュニティ機能が低下。
- 村山六ヶ村堰疎水やその周辺に生育している希少植物などの観光資源があるものの、それらの資源を保全し、郷を守り育て次世代につなぐという気運が低いことが課題であった。



世界かんがい施設遺産に選定された村山六ヶ村堰疎水

取組内容

- 本交付金を活用し、集落間で連携し、小学校の総合学習や親子3代で疎水の歴史や役割について学ぶウォーキングイベントを開催。
- 伝統食(ほうとう)の調理体験や女性グループによる地域の特産物であるトマトを活用したスイーツ試食会、希少植物の観察会等の地域の魅力を学ぶためのイベントを実施。
- 活動組織で設計・積算を行い、地域の在石を利用して景観に配慮した補修を実施。



ウォーキングの様子



景観に配慮した水路の補修

取組の効果

- 地域内の子どもを対象に疎水の歴史や役割を学ぶ環境学習に取り組むことで、親世代にも、疎水保全に係る理解を醸成。
- 村山六ヶ村堰疎水や地元食材など地域の魅力を発信。知名度を上げることで、多くの観光客が来訪し地域を活性化。
- 本交付金の活動を通じて、疎水の歴史や文化、地域資源を次世代へ残していこうという気運が高まっている。



絶滅危惧種の
キキョウ



地域の伝統行事(虫送り)